

● **欧州復興開発銀、2019年にトルコへ10億ユーロ投資**

欧州復興開発銀行 (EBRD) は、トルコに対し2019年、農業や輸出セクターを中心に昨年と同規模の10億ユーロ (11億ドル) 前後の投資を行う予定だ。トルコのアナドル通信が、EBRDの同国担当責任者の話として報じた。EBRDは昨年、同国で34件のプロジェクトに投資した。一部は、通貨リラがドルに対し約30%下落し経済全般への悪影響が懸念された通貨危機時に実施された。

● **トルコリラ軟調、11月経常収支は9.86億ドルの黒字**

トルコリラTRYは軟調。トルコ中銀のデータによると、2018年11月の経常収支は9億8600万ドルの黒字。ロイターがまとめたエコノミスト予想 (9億6500万ドルの黒字) は大幅には上回らなかった。リラは今年に入り2.5%超下げている。2018年は米国との外交問題での対立や中銀の独立性に対する投資家の懸念を受け、大幅に下落した。中銀は経済安定に向け、昨年9月に625ベースポイントの大幅利上げを行った。クレディスイスのトルコ担当エコノミストは11日付のノートで「海外投資家の信頼感を高め海外資本を呼び込むには、トルコは予測可能で信頼性と透明性の高い政策が必要だ」との見解を示した。

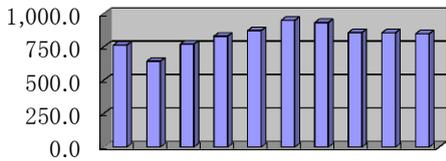
● **トルコCPI、12月は前年比+20.3% 2カ月連続で鈍化**

トルコ統計局が発表した2018年12月の消費者物価指数 (CPI) は前年同月比20.3%上昇と、ロイターがまとめた市場予想の20.52%上昇をやや下回るペースに伸びが鈍化した。減税や製品の値引きが物価の上昇抑制につながった。CPI上昇率は201810月に25%超と15年ぶりの高水準を付けて以降、鈍化が続いている。12月のCPIは前月比では0.40%低下した。市場予想は0.23%低下だった。衣料と輸送費が最も大幅に低下した。一方、食品価格は前月比で最も大幅に上昇した。12月の生産者物価指数 (PPI) は前月比2.22%低下、前年比33.64%上昇となった。

- ◆面積： 780,043平方km (日本の約2倍)
- ◆人口： 8,081万人 (トルコ統計機構)
- ◆首都： アンカラ
- ◆言語： トルコ語 (ウラル・アルタイ語系)
- ◆通貨： トルコ・リラ
- ◆名目GDP総額： 8,495億万USドル
- ◆実質GDP成長率： 7.05%
- ※ 特記ない限り、2017年度数値
- ※ 出所：日本貿易振興機構 (ジェトロ)

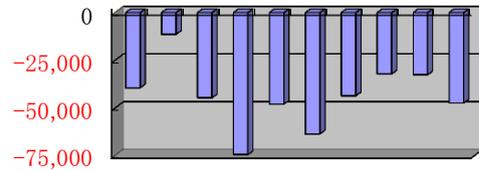
※出所：日本貿易振興機構 (ジェトロ) 【通商弘報】

名目GDP総額の推移 (単位:10億米ドル)



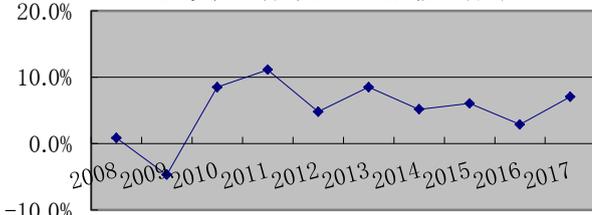
出所:IMF World Economic Outlook Database (2018年4月号)

経常収支 (国際収支ベース) の推移 (単位:100万米ドル)



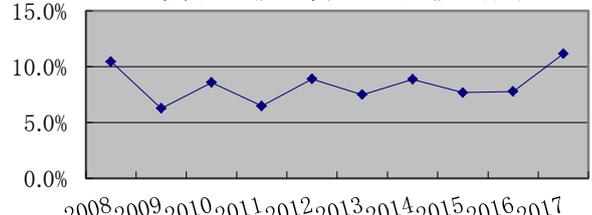
出所:IMF International Financial Statistics (2018年7月31日付)

実質GDP成長率の推移 (%)



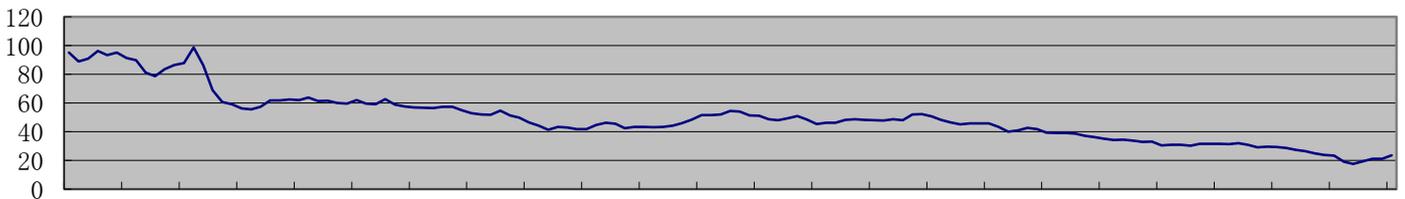
出所:IMF World Economic Outlook Database (2018年4月号)

消費者物価上昇率の推移 (%)



出所:IMF International Financial Statistics (2018年7月31日付)

トルコ・リラ 対円為替チャート



(単位:円、1トルコ・リラ)

出所:三菱UFリサーチ&コンサルタント月平均公表仲値データより当社作成

記載した内容はトルコ共和国を紹介する目的のもので、記載したデータは2019年1月25日現在のデータの中から任意で選択したものです。また数値等に関して当社が保証するものではなく、将来を示唆するものでもありません。実際に商品のご購入を検討される際は契約締結前交付書面、販売説明書および販売資料等をご確認くださいようお願いいたします。